

令和7年度 「ふるさと岐阜 古地図散歩」(10月19日実施)

「中山道 ー垂井宿～赤坂宿をゆくー」 講師：鈴木 隆雄 氏

〔当日コース〕

①垂井駅北口（集合）→②相川の人足渡し跡→③美濃路追分→④青野の一里塚跡→⑤照手姫水汲井戸→⑥粉糠山古墳→⑦昼飯大塚古墳（昼食）→⑧兜塚→⑨お嫁入り普請探訪館→⑩お茶屋屋敷跡→⑪脇本陣跡→⑫矢橋家住宅→⑬谷汲道道標→⑭旧清水家住宅→⑮本陣跡→⑯赤坂港跡→⑰美濃赤坂駅（解散）

1. 概要（講師作成の資料より）

- ②相川の人足渡し跡：昔から暴れ川で架橋ができず、人足渡しがあった。
- ③美濃路追分：宝永6年（1709）建立道標「是より右東海道大垣みち 左木曾海道たにぐみみち」。享保3年（1718）建立道標「右みのち 大かきミチ あつたミチ 左きそち たにぐみみち ぜんこうじ道」（タルイピアセンター中庭に復元）。
- ④青野の一里塚跡：大正5年建立の大神宮常夜燈前に標石。江戸日本橋より111里目。
- ⑤照手姫水汲井戸：青墓長者に売られた照手姫は、客取りを拒否したため、長者より籠で井戸水を汲めといういじめにあう。
- ⑥粉糠山古墳：前方後方墳は、青墓宿の遊女たちが化粧に浸かった粉糠が積もり、山になったという伝説がある。
- ⑦昼飯大塚古墳：全長150mにも及ぶ岐阜県最大の前方後円墳で、今から1600年ほど前に築かれた。
- ⑧兜塚：関ヶ原の前哨戦、「杭瀬川の戦い」で戦死した東軍中村隊の武将野一色頼母の鎧兜を埋葬したと伝えられる。
- ⑨お嫁入り普請探訪館：江戸時代末の文久元年（1861）、皇女和宮が降嫁した際、宿には大行列の一行が宿泊したため、街道沿いの古い家屋の建替えや空き地への新築が計54軒に及んだ。
- ⑩お茶屋屋敷跡：慶長9年（1604）徳川家康が岐阜城の御殿を移築し、将軍専用の宿泊所跡で、創建当時の城郭様式を偲ぶ土塁や空壕の一部が残っている。
- ⑪脇本陣跡：飯沼家が勤め問屋、年寄役を兼ねた。脇本陣の建物を継承して、のちに榎屋旅館を経営。
- ⑫矢橋家住宅：本陣を勤めた矢橋家は、天保4年（1833）築の町屋、国指定文化財。
- ⑬谷汲道道標：北の筋は谷汲巡礼街道、南は伊勢へ通じる養老街道。
- ⑭旧清水家住宅：赤坂宿のほぼ中央に位置する、宿内に現存する建造物の中で最古級の町屋建築である。
- ⑮本陣跡：寛永以降は馬淵太郎左衛門、次いで平田又左衛門、天明・寛政の頃は谷小兵衛に代わり、以後、矢橋広助が明治維新まで勤めた。
- ⑯赤坂港跡：諸藩の廻米が集積された。

《古地図散歩の様子》



2. 訪れた場所 コース図

県域統合型GIS ぎふより
(C) 岐阜県

